

第5回未来開拓会議

「体育」から「スポーツ」へのマインドチェンジ



一般財団法人UNITED SPORTS FOUNDATION
諸橋寛子

KIDS PARK開設

震災直後、福島市の子どもたちが放射能について心配せずに遊べる無料の運動施設を開設。



活動範囲を全国へ

復興から“スポーツ振興”へ、日本各地の自治体や賛同企業と協力し、活動範囲を全国へと広げていく。



共催事業の拡大

企業や自治体との共催イベントや、イベント企画協力の活動が拡大。



2011
○

2012
○

2015
○

2020
○

2021
○

2022
○



USF Sports Camp

東北を中心に子どもたちのソーシャルスキル向上を目指した宿泊型スポーツイベントをスタート。



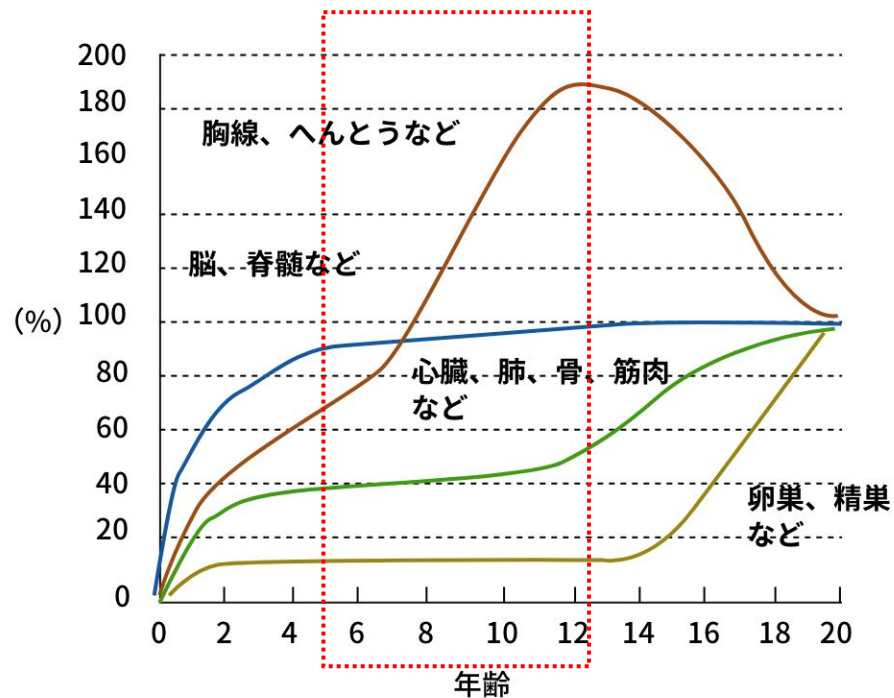
オンライン事業

コロナでイベントの開催が困難な中、どこからでも参加できるオンラインイベントをスタート。

USFが
ターゲットとする層

ゴールデンエイジ期の子どもたち

ゴールデンエイジ期とは？



子供の身体能力、運動能力が著しく発達する5～12歳の時期のこと。

人間の運動神経のほとんどは、このゴールデンエイジ期につくられ、さまざまな動作を経験することで脳への刺激や、神経回路の発達で将来的な運動神経を高めることができると言われている。

参考事例①

USF Sports Camp（宿泊型マルチスポーツキャンプ）



- トップアスリートの直接指導
- 多様な競技種目を体験（メジャースポーツ・マイナースポーツ・パラスポーツ）
- 共同生活によって、ソーシャルスキルを育む



“スポーツは好きじゃなかったけれど、みんなと協力して仲良くなれたし、楽しかったので、スポーツのことが好きになった。”

“男性でも女性でも、障害があってもなくても、工夫をすればみんな一緒にスポーツを楽しめることを知った。”

“引っ込み思案な娘もプログラムを最後までやりきる事ができ、本人も少し自信がついたように思います。”

ゴールデンエイジ期は、身体能力の発達と同時に、社会性や道徳的感覚を身に付けていく時期。
子ども自身の考えで行動する機会を与え、失敗から何かを学んだり、成功体験を積んだりすることで
それらが子どもたちの将来的な成長の土台に。

非公開

参考事例③

神石インターナショナルスクール

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を育む態度を育てている。

1学期

自転車、水泳



2学期

ゴルフ



3学期

スキー、スケート



シーズンスポーツ制を採用し、勝敗を受け入れる事、スポーツマンシップ、チームワーク、ルールと戦術が重要である事を学ぶ。

複数のスポーツを楽しむ = 子どもの心身の成長 + 将来のスポーツへの関心拡大



余暇を過ごす（日々を豊かにする）ためのスポーツ

諸外国のスポーツ実施率

	対象年齢	週1回以上	週5回以上	週3～4回	週1～2回	週1～3回	その他
日本	20歳以上	40%	20%		21%	21%	16%
イギリス	15歳以上	46%	10%	16%	20%	7%	47%
ドイツ		48%	7%	14%	27%	7%	45%
フランス		43%	8%	11%	24%	7%	50%
イタリア		30%	3%	9%	18%	2%	68%
フィンランド		66%	13%	24%	29%	6%	28%
スウェーデン		69%	15%	23%	31%	7%	24%
オーストラリア		69%	28%	20%	22%	30%	

日本の成人のスポーツ実施率はフィンランド、スウェーデン、オーストラリアといった国々（対象年齢15歳以上）を大きく下回る。

スポーツ庁Web広報マガジンより（2018.3.30）

<https://sports.go.jp/special/value-sports/participation-in-sport-and-physical-activity.html>

参考事例 スパルタンレース



- 2017年～2019年までゼビオグループの事業会社であるクロススポーツマーケティング株式会社が事業展開
- 日本のスパルタンレースに海外のアクティブシニアが参加
- 大会参加と観光、宿泊、グルメなど、スポーツツーリズムとしての産業拡大

音楽や芸術のみならず
“スポーツを楽しむアクティブシニア”としての豊かな人生（Well-being）は
子どもの頃のスポーツとの関わり方が影響

クロススポーツマーケティング株式会社 Newsより（2019.7.8）
<https://www.xsmktg.com/whatsnew/1191/>

企業との事例①

コニカミノルタジャパン株式会社



BtoCのアプローチ

マルチスポーツ教室を通じて視覚障がい者支援システムである立体コピー機「もこもこ手形」を体験し、関心を持ってもらうイベントを開催。

企業との事例②

SMBCグループ



社会貢献活動

ラグビーをやったことがない子どもたちでも楽しめるラグビー教室を開催し、ラグビーに係るスポンサーをしているSMBCグループの社会貢献活動に協力。

自治体との事例 品川区



地域スポーツ普及 & 社会課題解決

東京2020大会で品川区開催である「ホッケー」の普及活動と子どもたち体力低下などの社会課題解決の一助となるよう、「ホッケー & かけっこ教室」の企画・運営協力を行った。

その他の事例：実証事業の取組協力 山口県美祢市



「未来のブカツ」実証事業への協力

FSの一環としてマルチスポーツイベントの開催協力。
【主催】株式会社YMFGZONEプランニング
【共催】美祢市教育委員会、山口第一株式会社、USF
【協力】 MINEスポーツマネジメント共同体

- ゴールデンエイジ期に多様なスポーツに触れることは子どもたちの心身の成長の土台となる
- 複数のスポーツを楽しむ = 子どもの心身の成長 + 将来のスポーツへの関心拡大
- 幼少期の体験が将来、芸術や音楽、スポーツを楽しめる豊かな人生 (= Well-being)に繋がる

＜部活動の地域移行について＞

- 企業を起点にも、自治体を起点にも産業化の可能性が十分にある
- 新たな資源を、日本の子どもたちのより良いスポーツ環境づくりに還元することが出来るのではないか



ご清聴ありがとうございました